



城南家保ニュース Vol. 17-2

熊本県城南家畜保健衛生所 平成17年 5月 発行

TEL: 0966-22-3814 FAX: 0966-22-3617

もうすぐ夏！ あなたの暑熱対策は万全ですか？

暑熱は、家畜の生産性に大きな影響を与え、日射病や熱射病により家畜を死亡させる原因にもなります。

暑熱には気温、湿度、送風、放射熱などの要因があります。

1 気温

家畜は、飲水などによって熱放散を促進し、飼料の摂取量を減らして体熱の生産を抑制します。そのため、産乳・産卵・増体などの生産性が低下し、抗病性も減退します。
(オスの精液やメスの発情にも影響を与え不妊の原因にも)

2 湿度

湿度の上昇は、熱がこもった状態となり熱射病を生じます。

3 送風

送風は体表の空気を移動させ、家畜の体からの熱放散を促進し、暑熱の影響を軽減させますが、適度な空気の流れがないと気温が体温を超えた場合、体内への熱の流入を促進させ暑熱の影響を増強します。

4 放射熱

太陽からの日射や反射放射熱として家畜に影響します。放射熱は日陰などの適切な保護施設を設けることによって軽減することができます。



暑熱対策(畜種毎)

<乳用牛および肉用牛>

- ・ 牛体の毛刈り、送風ファンの取り付け状態、風の向きを確認してください
(また細霧装置の利用も効果的です)
- ・ 新鮮な飼料を食べ残さない程度の量を数回に分けて給与してください
(ビタミン、ミネラル、重曹などの飼料添加、夜間の粗飼料給与も効果的です)
- ・ できるだけ新鮮な水を与えてください
- ・ 可能であれば畜舎の夜間開放を行ってください

< 豚 >

- ・ 舎内の風通しを良くし、送風ファンの取り付け状態、風向きを確認してください
- ・ 遮光ネットなどによる直射日光の遮断、水の頸部滴下を実施してください
- ・ 給水器の点検はもちろん、飼養密度を少なくしてください
(豚の移動、出荷は朝夕の涼しい時間帯に行うようにしましょう)
- ・ 食べ残し飼料をこまめに取り除き、新鮮かつ高エネルギーで嗜好性の高い飼料を数回に分けて給与しましょう
(ビタミン、ミネラル、ニンニク粉末などの飼料添加も効果的です)
- ・ 人工授精の利用(雄豚の活力低下による受胎率低下対策)
- ・ できるだけ新鮮な水を与えてください

< 鶏 >

- ・ 鶏舎内および周囲の整理整頓をし、風通しを良くしてください
(遮光ネットなどの利用、ケリングパッドなど冷却装置の目づまりを除去も重要です)
- ・ 新鮮な水の給与、飼養密度の適正化および鶏糞の定期的な除去など
- ・ 給餌は日中の暑い時間帯を避け、早朝、夕方の涼しい時間に行ってください
- ・ 給餌回数を増やし、食べ残しを少なくするとともに高エネルギーで嗜好性の高い飼料を給与してください(ビタミン・ミネラルの飼料添加も効果的です)

*** ご不明な点がございましたら、家畜保健衛生所までお問い合わせください**